



先月から登園児童数はいつもの保育園に戻りましたが、新型コロナウイルス感染症対策として、新たな日常が始まっています。三密を避けること、マスク着用、丁寧な手洗い・消毒の徹底、不要不急の外出を極力避ける等、密な状態を作らないことが奨励されています。既にお話ししているように、子どもの行動様式は「密」を切り離すことができません。例年のような活動、行事も制限されています。そうした新たな日常の中で、岩根保育園の保育をいつものように進めるためにこれまで以上の知恵と工夫が求められています。

室内環境は、冷房を使っても換気をこまめに行い、密閉状態を作らないこと。3歳以上のクラスでは、大人も子どももマスクを着用すること。3歳未満のクラスでは、マスクの呼吸器への影響を考慮して子どもはマスク着用をしません。小グループに分かれて密集を避けるようにしています。屋外でも密集状態にならないように目配りをして小集団で遊べるように配慮しています。これから気温が上昇し、マスク着用により熱中症等が懸念されています。常に子どもの様子を観察し、必要に応じてマスクを外すことも考えています。

バスを使っての野外活動は、現時点では団体予約が不可能のために例年のように行うことができません。それぞれの活動には教育上の目的があります。例えば、年長児の「潮干狩り」は、保育園には体験することのできない「海の自然に触れる」ことを目的としています。年中児の「ブルーベリー狩り」は、海と同様に「山の自然に触れる」ことを目的としています。年長児の卒園親子遠足は、前者と異なり教育上の目的から離れ、親子ともに保育園に通い続けてきたことをねぎらう意味合いがあります。いずれにしても保育園には経験のできない活動です。新型コロナウイルス感染症の終息には時間がかかると言われています。そうであれば、いろいろな活動をやめることだけではなく、新たな日常でなければ体験できない活動を考えるべきだと思っています。海や山にクラス全員で行けなくても、畑や散歩での自然との触れ合いはできます。食育活動の一環としてというよりは、岩根保育園の保育目標を実現する活動としてとらえています。例えば、稲の栽培は、一人ではできません。みんなで力を合わせて成し遂げる達成感、充実感は次の活動への意欲につながります。力を合わせることは人と関わる力を育てます。このように考えれば教育上の目的を果たすことができます。目立つ活動ではありませんが、日々の生活を送る中で実現できることです。

「あゆみ」を読んで子ども用のマスクをわざわざ作って寄付して下さった保護者の方や、マスクや消毒薬をくださった方もいらっしゃいました。困っている時だからこそみんなで支え、助け合っていくことの大切さを改めて実感しました。子どもたちも「感謝する心」や「ありがとう」と言える心が自然に育まれています。新型コロナウイルス感染症による不安、不自由な生活から見えた将来の光かもしれません。

園長 平野弘和